

総社吉備路文化館 平成 28 年度 年報

1 施設概要	2
2 事業報告	3
展示室貸出	3
企画展覧会	3
共催展覧会	6
常設展示 高木聖鶴作品展示室	7
3 その他	8
年間入館者数	8
職員	8
編集後記	8

1 施設概要

文化勲章を受章された高木聖鶴氏の作品を展示する常設展示室、一般利用も可能な展示室、総社市や総社市文化振興財団が所蔵する美術品の収蔵庫をもつ館です。

建物は昭和50年建で、平成22年3月に閉館した岡山県立吉備路郷土館を平成24年3月、総社市が岡山県からの無償譲渡を受け、リニューアル。高木聖鶴氏の書をはじめ、総社市ゆかりの画家の作品などを収蔵するとともに、展示室では各種展示を行っています。

- 1階 … 収蔵庫、事務室、ロビー
- 2階 … 高木聖鶴作品展示室、展示室、
ガイドスコーナー

諸データ… 開 館／平成26年 4月
敷地面積／5,193㎡
建 年／昭和50年
構 造／鉄筋コンクリート2階建
延床面積／978.02㎡

1 階	498.87㎡
2 階	479.15㎡
収蔵庫	269.64㎡
展示室	213.84㎡

◆ 利用案内

開館時間／午前9時から午後5時まで
※入館は午後4時30分まで
休館日 / 月曜日、年末年始
入館料 / 無料

◆ アクセス

備中国分寺北側の駐車場をご利用いただき、その後、徒歩でお越しください。駐車場からは、徒歩で約10分です。備中国分寺北側の駐車場までは、

- ◎JR伯備線「総社駅」から車で約15分
- ◎岡山自動車道の岡山総社ICから車で約15分
- ◎山陽自動車道の倉敷ICから車で約15分

また、備中国分寺の南側にある吉備路もてなしの館そばの駐車場からは、徒歩で約15分です。

◆ お問い合わせ

岡山県総社市上林1252
☎・ファクシミリ 0866-93-2219

2 事業報告

展示室貸出

- 第10回 書道儷山会展 平成28年4月6日～4月10日
- 版表現の楽しみ ～感光性樹脂板で遊ぶ～ 平成28年4月26日～5月1日
- おさかなプロジェクト展 平成28年5月3日～8日
- 第3回高木聖鶴児童生徒競書大会入賞作品展 平成28年5月17日～29日

展示室の貸出案内

利用を希望する場合は、事前に空き状況をご確認のうえ申請をしてください。
使用期間／火曜日から日曜日までの連続6日間の範囲。時間は、いずれも午前9時から午後5時まで

使用料／・総社市在住、在勤、在学の方は、1日500円
・それ以外の市外の方は、1日1,000円

申請方法／使用予定月の6か月前の第1日曜日の午前10時に、総社市総合文化センターで受付を行います。重複する利用の申請があった場合は、抽選となります。

貸出の問い合わせ／

総社市総合文化センター（〒719-1131 総社市中央三丁目1-102）

☎0866-92-3491 メール e-bunkact@city.soja.okayama.jp

企画展覧会

子ども美術館 誇りに思う人々



会期 平成28年6月4日（土）～7月24日（日） 51日間
主催 総社市教育委員会
入場料 無料
入場者数 773人

概要

芸術の分野で活躍した総社ゆかりの偉人12名を、小学生にもわかりやすい解説文で、その作品とともに紹介。郷土の偉人を知ってもらい、総社を愛し文化への感心を深めてもらうことを目的として開催しました。紹介した偉人は雪舟、古川古松軒、堀 和平、吉富朝次郎、満谷国四郎、稲葉春生、入江北宰、平田郷陽、皆見鵬三、山本正、大野昭和斎、片岡球子。

来場した子ども向けに展示作品の人気投票を実施しました。

メディア掲載

平成28年6月29日付け 山陽新聞 地域版
平成28年7月1日 FM倉敷

来場者アンケート結果

順位	作 品 名	作 者
1	鮎	入江 北幸
2	天橋立図	雪舟
3	秋冬山水図	雪舟
4	豪溪秋色	入江 北幸
5	雪舟七十一歳像	雪舟
6	椿樹	稲葉 春生
8	春のめでたき富士	片岡 球子
9	古梅図	稲葉 春生
10	ブルターニュの風景	満谷国四郎

1位を獲得した《鮎》は現在の総社市美袋生まれの日本画家、入江北幸の作品。大画面いっばいに美しい青色で描かれた水中の鮎が子どもたちの心を掴みました。

高木聖雨書展 魅せる黒白の美



会期 平成28年8月5日(金)～9月25日(日) 52日間
 主催 総社市、総社市教育委員会、総社市文化振興財団
 入場料 無料
 入場者数 1,131人



概要

総社市出身の漢字書家、高木聖雨氏の作品25点を展示。平成27年に改組 新 第2回日展で文部科学大臣賞を受賞された作品「駿歩」(岡山県内では初公開)を中心に、市と総社市文化振興財団の所蔵作品を展示しました。高木氏は毛筆書体の篆書、隸書、楷書、行草書の全書体を研究し、「書道は瞬間の芸術である」という持論で「魅せる書」を追及され、力強さと巧みなアレンジにより、現代感覚あふれる作品を制作。

また、故郷総社市では平成26年から毎年開催している高木聖鶴児童生徒競書大会の企画、運営に尽力され、書の振興に大きく貢献されています。

メディア掲載

平成28年8月14日付け 山陽新聞 全県版
 平成28年9月1日付け 山陽新聞 全県版文化面

関連行事

高木聖雨書展 魅せる黒白の美 オープニングセレモニー 来場者 121人

平成28年8月5日(金), 10時30分から

会 場 総社吉備路文化館(総社市上林1252) 2階ロビー

内 容 1 開会 2 主催者あいさつ
 3 来賓あいさつ 4 高木聖雨氏あいさつ
 5 テープカット 6 閉会

※セレモニー終了後、高木氏による作品解説あり

総社ゆかりの作家展Ⅱ 稲葉春生～一心に自然を見つめて～



会期 平成28年10月1日(土)～12月11日(日) 72日間
主催 総社市、総社市教育委員会、総社市文化振興財団
入場料 無料
入場者数 2,214人

概要

総社ゆかりの作家を紹介する企画展シリーズ第2弾。総社市新本生まれの日本画家、稲葉春生(1890-1976)の作品30点を「鳥」、「魚」、「植物」、「風景」、「花」など、作品の主題ごとに分類し展示しました。春生は小学校教師として勤めた後、京都へ出て近代日本画の先駆者、竹内栖鳳に入門。花鳥画を得意とし、写生を重んずる円山・四条派の技法に基づいて常に誠実に自然と向き合い続けました。戦後は岡山に戻り、画壇の発展と後進の育成に尽力しました。

メディア掲載

平成28年10月号『タウン情報おかやま』
平成28年10月18日放送 倉敷ケーブルテレビ
平成28年11月20日付け 山陽新聞 都市圏版

関連行事

中学生の職場体験学習受け入れ

期間 平成28年11月15日から17日
受け入れ人数 総社東中学校から1名、高松中学校から4名

期間中は館内の清掃や監視といった施設管理や、収蔵庫の見学等を実施しました。また、学芸業務の体験として、展覧会を鑑賞し、その見所としてお勧めの作品をお客様に紹介するポスター展示を作成しました。

共催展覧会

おさかなプロジェクトと不思議なジオデシックドーム展～総社芸術祭 2017 プレイベント～



会期 平成29年2月1日（水）～2月8日（水） 8日間
おさかなプロジェクト
共催 総社市教育委員会、総社芸術祭実行委員会
入場料 無料
入場者数 364人

概要

おさかなプロジェクトは、岡山県立大学デザイン学部の同級生3名により2009年に結成された制作グループ。卒業後も自由な表現の場としてグループでの活動を続けています。

この個展は、平成29年4月23日から、5月7日までの期間で開催される第3回総社芸術祭2017の予告として開催しました。多面体オブジェに総社芸術祭をイメージした画像を含む映像をプロジェクションマッピングで投影したほか、市民の皆さんに制作していただいた、芸術祭のテーマである「赤と黒」色の立体きり絵、約500個を展示しました。

メディア掲載

平成29年2月2日放送 NHK 岡山放送局「もぎたて！」

版表現の楽しみⅡ 総社市所蔵・森コレクション+倉敷市立美術館版画講座作品



会期 平成29年2月11日（土）～4月9日（日） 58日間
主催 岡山県立大学デザイン学部関崎研究室、総社市教育委員会
後援 倉敷市教育委員会
入場料 無料
入場者数 1,317人

概要

「版表現の楽しみ」は、岡山県立大学デザイン学部関崎研究室が感光性樹脂板をテーマに、総社吉備路文化館平成28年4月26日から5月1日までの期間で第1回目を開催しました。第2弾となったこの展示は、銅版画をテーマに初めて総社市教育委員会との共催展覧会となりました。関崎研究室による作品と、同研究室が倉敷市立美術館で開催している版画講座の受講生による作品、県立大学で開催されたワークショップでの作品合わせて25点と、総社市が所蔵する森コレクションから17点を展示しました。

メディア掲載

平成29年2月25日号 リビングくらしき

常設展示 高木聖鶴作品展示室

展示テーマ「夏」 平成28年6月14日～10月11日

夏の夜は	平成5年
ここはなほ	平成8年
夏の蝶	平成17年
宵待草	平成14年
爽涼	平成14年

展示テーマ「万葉集と月」 平成28年10月12日～12月12日

あこの浦	平成9年
天の原	平成2年
豊旗雲	制作年不詳

展示テーマ「正月と雪」 平成28年12月13日～平成29年3月6日

天の青	平成14年
雪月花	平成6年
福寿草	平成10年
大空に	平成10年
朝陽	平成10年

追悼 高木聖鶴先生 平成29年3月7日～

天離る	昭和48年
恵方とは	制作年不詳
古今和歌集巻第一	制作年不詳
古今和歌集抄	平成3年
春と秋	昭和61年

高木聖鶴先生は平成29年2月24日、ご逝去されました。高木聖鶴作品展示室では、3月7日より追悼展示として総社市と公益財団法人総社市文化振興財団に寄贈された約100作品の中から代表作を5点展示しました。

3 その他

年間入館者数

平成26年度	8,863人
平成27年度	10,253人
平成28年度	7,718人

職員

総社市教育委員会	文化課長	河原 隆
総社市教育委員会	学芸員	豊嶋乃女
総社市教育委員会	嘱託員	三村啓介
総社市教育委員会	嘱託員	兼信正紀
総社市教育委員会	嘱託員	住谷和則
総社市教育委員会	臨時職員	谷山雅彦
総社市教育委員会	臨時職員	安倍美知代
総社市教育委員会	臨時職員	守安君子

編集後記

平成28年度は、総社吉備路文化館で初めての子ども向け展覧会「子ども美術館 誇りに思う人々」を開催しました。「画聖」雪舟をはじめ、満谷国四郎、稲葉春生など総社が輩出した多くの芸術家の作品を、子どもたちに親しみやすく紹介すべく開催したものでしたが、「洋画」や「日本画」など、普段私たちが当たり前の固有名詞として使用している言葉の意味を改めて考えさせられるなど、子ども向けならではの難しさがありました。

また、会場で実施したアンケートでは、好きな作品の人気投票を行い、1位に入江 北宰の「鮎」、2位と3位に雪舟作「天橋立図」、「秋冬山水図」が選ばれました。雪舟の水墨画は子どもたちには少し難しいのでは、と予想していましたが、この結果は雪舟生誕の地である総社の子どもたちが、いかに雪舟と身近に接しているかを示すものではないでしょうか。

(学芸員：豊嶋 乃女)